

## 三浦市立岬陽小学校

研究テーマ：自分らしく いきいきと 表現する子  
～伝えたくなる場・かかわりづくり～

### 1 実践の目的

本校の学校教育目標は「自分らしくいきいきと」である。本目標には、子どもたち誰しものがもつ「よさ」を自覚し、自信をもち、発揮することを「自分らしさ」とし、その中で、「幸せ」と感じいきいきと生きる子になってほしいという願いが込められている。本研究のテーマである「自分らしくいきいきと表現する子」は、学校教育目標を受け、そのような子どもを育てていきたいと考え、設定した。このような子を育てていくことを目指しながら研究をしていく中で学校内の共通理解を図り、チームで子どもたちを育てていこうとする意識を醸成していきいたいと考えた。

### 2 実践の内容

#### (1) 子ども像の共有

本研究を進めるにあたって、「自分らしくいきいきと表現する子」の具体的な姿を、

- ①「なぜだろう？」と自ら問い続ける姿
  - ②「こうしたい！」と自分なりの目標をもって考え続ける姿
  - ③「やってみよう！」と表現する姿
- の3つと定義し、教員間で共有するところから始まった。

#### (2) 研究の柱

##### ①グループによる単元づくり

上記のような子どもを育てていくために、学年ブロックを単位としたグループ研究を行った。授業者に任せるのではなく、教材研究からグループで行い、単元づくりや指導

案づくりを行うことで、学校として子どもたちをどう育てていくのか共通理解を図った。

##### ②系統性を意識した単元づくり

1年間ないし2年間及び6年間を見通し、系統性を考えながら単元づくりを行った。学年間のつながりを意識したり、共通の帯活動を行ったり、また、指導案については本時案よりも単元計画を大切にすることで、子どもの思考の流れや単元同士のつながりをより意識することにつなげることを図った。

##### ③子どもを主語にした授業づくり、協議会

教師の指導力に視点を当てるのではなく、子どもにとってどうだったか、子どもたちの姿を通して、授業について考えた。教材理解や内容理解ではなく、子どもの資質・能力を伸ばすためにはどうすればよいか考えていき、協議会でもその子の姿を見て、より伸ばしていくためにはどうすればよいのか考えていくことで「子どもを主語にした授業づくり」を進めてきた。また、研究授業および協議会により研究を深め、共有化を図り、岬陽小のチームとしての研究を創っていった。

##### ④講師を招聘しての研修会の実施

横浜国立大学非常勤講師の白井達夫先生を講師として招聘し、「系統性を意識し、年間を通して計画的に単元を作っていくこと」「単元で子どもを育てること」「カリキュラムマネジメント」等をテーマに研修会を実施した。講演の中で、子どもを主語に授業を

考えること、学校がチームとなり、子どもたちを育てていくことの重要性を学んだ。

### 3 実践の成果と課題

低学年部は、3年生の算数「筆算の仕方を考えよう」、高学年部は、6年生社会の「明治の新しい国作り」の単元づくりを行った。

#### ①低学年部授業実践

3年生の算数科では、目指す子ども像を「既習事項を生かして自分なりに計算する方法を考える姿」と捉え、「筆算の仕方考えよう」の単元の中で、育てていきたいと考えた。子どもたちは、乗数が1桁の乗法の計算は今までに学習しているが、乗数が2桁以上の計算は学習していない。子どもたちからは、交換法則や結合法則やかたまりで考えるなどの既習事項を図や式に表しながら友達に説明しようとする姿が見られた。

この授業の後から既習事項を意識する姿が見られるようになり、分数の学習をしたときは、小数の単元で学んだことを生かして似ているところを説明したり、進んで関連付けたりしながら考える姿が見られるようになった。



3年生研究授業 図を使って自分の考えを説明

#### ②高学年部授業実践

6年生の社会では、江戸と明治の浮世絵を比較し、世の中の様子の変化について考え、疑問をもたせるところから学習が始まった。そこから、江戸幕府が終わるまで、明

治の新しい国づくりについての2部構成にし、学習していくことにした。特に明治政府の政策については、暗記することに終始してしまいがちな学習を、如何にして子どもたちに様々な資料や意見をもとに多角的に考えさせることにつなげられるか考え、そこで班ごとに明治政府の政策について調べ、ランキングを作成する学習を行った。子どもたちはそれぞれ調べたことを根拠に、意見を言い合いながら、様々な立場に立ったり、他の政策と関連付けたりしながら政策について考えることが出来た。授業後子どもたちからは、難しい内容にも関わらず、「今までの社会で一番楽しかった。」「幕府や政府のやったことについてこんなによく考えたのは初めてだった。またやりたい。」というような声が聞かれた。



6年生研究授業 班ごとのランキングを作成

### 4 今後の展開

今年度、研究を行う中で、共通理解を図りながら、チームとして授業づくりについて考えることが出来た。研究の進め方として、教員間の共有には、改善が必要と考えている。来年度は、また、子どもの実態を考えながら、学校が1つのチームとなって「自分らしくいきいきと表現する子」を育てていきたい。